



# 第9回 キジカケル 突撃レポート!

## ~障害者施設親善競技大会 九州王者に迫る!編~

川内自興園と新葉学園で  
3種目全てを制覇!

11月に長崎県で開催された九州地区知的障害者施設親善競技大会で、本市の「川内自興園」と「新葉学園」の2施設が全3種目を制覇したんだそう!

これは、とてもすごいことなんじゃないかな?  
取材してみよう!



# 本市の2施設が快挙!

2施設が大会で制覇した種目は、  
「テニールボール」  
「グラウンド・ゴルフ」  
「ソフトバレーボール」の3つ!

岩切市長へこの快挙の報告にお越しいただきました。

皆さんが知りたいことや紹介したいことなどがありましたら、情報をお寄せください。キジカケルが取材に伺います。  
問合せ先／本庁広報室広聴広報G(内) 632

## 川内自興園は、「テニール」でなんと3連覇!

川内自興園は、百次町にある障害者支援施設で、約130人の方が共同生活援助事業所(グループホーム)などの施設を利用しています。

テニールボールの競技に選ばれた20代から60代の選手16人は、施設内外で野菜や花苗の生産などの仕事をしたり、一般企業に就労しながら、施設で共同生活などをして日々を過ごしています。



▲施設内で野菜の出荷作業中の古川さん(右)もチーム最年少で3連覇に貢献した16人の選手の一人。

大会に採用されたテニールボールは、攻撃時が13人、守備時は10人という投手のいない野球やソフトボールに似た競技で、支柱に置いたボールを打つことで攻守が展開します。

## 新葉学園は、「グラウンド・ゴルフ」で3度目! 「ソフトバレー」では、初優勝!

新葉学園は、樋脇町にある障害者支援施設で、101人の方が、施設を利用しています。

2つの種目に選ばれた選手11人は、自動車モーター部品の組み立てや焼酎ラベルの加工、パン工場での仕事などをしながら、日々を過ごしています。



▲ソフトバレーの選手、敷根さんと村岡さんが働くパン工場のパンは素朴で優しくおいしい。

グラウンド・ゴルフの40代から60代の選手5人は、地域の高齢者との交流を目的とした「ひわきYOU遊スポーツクラブ」での活動や地域の大会、イベントなどで腕を磨いてきました。

10チームが出場した今大会では、最優秀選手となった正岡和成さんが、ホールインワンを2回も決めるなど

16人の戦いは、九州大会の予選ともいえる4月の県大会に向けて、昨年2月に始動しました。

彼らは、柳本キャプテンを中心に、仕事終わりのキャッチボールなどの自主練習や休日を使った2時間の合同練習に励みました。

彼らにとって練習は、決して辛く苦しいものではなく、「勝ちたい、優勝したい」との熱い思いから、自分の時間を過ごす純粋な楽しみとして、日々、積極的に取り組み、技術とチーム力を磨いてきました。

しかし、10チームが出場した九州大会では、これまで2連覇している実績があるとはいえ、楽な試合展開ではありませんでした。

連続優勝しているプレッシャーや県代表で構成された選抜チームの台頭などもあり、苦しい試合が続きましたが、柳本キャプテンの大会 MVP の活躍やみんなの堅実な守備の成果で、見事3連覇を達成することができ、優勝が決まった瞬間には涙する選手もいました。

まさにチームで勝ち取った勝利だったのです。  
柳本キャプテンは、「3連覇できうれしいです。また来年も優勝できるよう練習に取り組みたいです」と話してくれました。

活躍し、他チームに力の差を見せつけ、3度目の優勝を果たしたのです。  
正岡さんは、「本番に弱いと思っていましたが、最優秀賞選手にまで選ばれて、まさか自分という気持ちです」と話してくれました。

また、9チームが出場した4人制のソフトバレーボールでは、30代から40代の選手6人が挑み、県の強化選手にもなっている敷根美保さんと村岡智恵さんを中心に、堅実なサーブと安定したレシーブ、鋭いスパイクで、予選から決勝まで終始相手を圧倒し、念願の初優勝を飾りました。  
優勝が決まった瞬間、6人はお互いの肩を叩きながら喜び、健闘を称え合いました。

## 取材を終えて

今回の2つの施設の快挙は、例え多少のハンデがあっても、何でもできるということを体現し、僕たちに勇気を与えてくれました。

また、取材をする中で、皆さんが普段から仕事にもスポーツにも、本当に純粋に一生懸命取り組んでいる姿に、感動を覚えました。  
この純粋さ、ひた向きさが大会の結果につながっているんだと感じました。

これから僕も勇気を持って、いろんなことに一生懸命取り組んでいきたいと思っています。

